

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、 <u>具体的手だて</u> ）、改善プランの評価
国語	- 平仮名は、ほとんどの児童が読んだり書いたりすることができている。字形を捉えることや、日頃から丁寧に字を書く姿勢も身に付けさせたい。 - いろいろな読み方で、音読に取り組んでいる。 - 読書への興味、取り組み方に個人差が大きい。文字を読む力を伸ばし、さらに読書に親しむことができるようにしたい。 - 三文程度の基本形に即した文は書くことができる。助詞、促音、拗音、長音の使い方をさらに身に付けさせたい。また、句点の使い方も十分に身に付いていない児童もあり、繰り返し指導をしていく必要がある。	- 字形を整えるために4つの部屋を意識したり、文字全体の形（四角、縦長、横長など）に注目したりできるようにする。 - 一人、ペア、グループ、全体など<u>読み方を変えたり、動作化・劇化などを工夫したりして</u>、音読の楽しさを感じられるようにする。 - すきま読書をすすめるとともに、<u>児童が興味を抱くような本や教科書に掲載されている本を紹介したり、読み聞かせを積極的に取り入れたりする</u>。また、図書室の本の貸し出しの際に、2冊のうち1冊は読み物の本を選ぶよう声を掛けることで、文字を読む機会を増やしていく。 - 日記を書いたり、他教科でも感じたことや気付いたことなどを書いたりする活動を多く取り入れる。文末に句点を付けているかを自分で確認することを繰り返し、意識づけをしていく。 <u>音読の家庭学習に、継続して取り組む。</u> <u>モジュールの時間を活用して、読書の時間を確保する。</u> <u>基本形（いつ、どこで、だれと、何をした、どうだったか）を使い、助詞・促音・拗音・長音の使い方を繰り返し練習する。</u>
算数	10までの数、たし算、ひき算はおおむねできている。 - 数の合成、分解について身に付け、数感覚をより養いたい。 - 問題場面と式を関連付けて理解する力を身に付けたい。	- 日頃から、ものの数を数える活動や「いくつといくつ」の学習の復習を授業に取り入れる。 - 計算カードを使って、数の構成を意識したり、計算問題に慣れたりできるようにしていく。 - 文章や絵を手掛かりにして、問題場面を明確に捉えることができるようにする。式で使われている数と問題文を関連付けながら、指導していく。
生活	- 学校探検で2年生に学校の様々なことを教わり、もっと自分が知りたいことを調べることができた。幼稚園や保育園のこどもたちと関わる機会をもち、小さい子に親しみをもたせたい。 - 一人一鉢で継続的にアサガオの世話と観察をし、大切に育てることができた。 - 動物を飼う活動はまだ行っていない。動物へ親しみをもち、生命の尊さを実感させたい。 - 身近な自然の様子や、四季の変化に気付かせたい。 - 水遊びで遊ぶものを作ったり、遊び方を考えたりしたが、工夫することに個人差があった。遊びや遊びに使う物を工夫してつくる力を身に付けさせたい。	<u>幼稚園や保育園との交流で、学校の紹介をしたり、幼稚園児や保育園児と遊んだりして、児童が自分よりも小さい子に親しみをもてるようにする。</u> <u>学校で飼育しているウサギやカメの世話をし、校庭・中庭の虫などを飼う。児童の「この動物を飼いたい」という思いを大切にし、飼育の仕方を調べ、世話をしたり、観察したりする。飼育を通して、動物の変化や成長の様子に関心をもつとともに、生命の尊さを実感できるようにする。</u> <u>校庭や中庭の探検を繰り返し行い、気付いたことを共有し、まとめることで、身近な自然の様子や四季の変化に気付くことができるようにする。</u> <u>様々な自然と触れ合ったり、繰り返し遊んだり、遊ぶものを作ったりすることで、工夫する力を育てる。また、一人一人の思いや願いを生かした多様な遊びを行うための学習環境を整える。</u>
音楽	- 歌唱が好きな児童が多く、範唱を聴いて曲想を感じ取ることができる。 - 表現活動に意欲的な児童と、恥ずかしさがある児童の差が大きい。自由に表現する楽しさを感じ、のびのびと活動を楽しんでほしい。 - 意欲的に取り組もうとする児童が多いため、鍵盤ハーモニカの正しい指使いやタンギングができるようにしたい。	- いろいろな演奏形態の曲や楽器の音色を聴かせ、様子を思い浮かべて聴いたり、曲の気分を感じたりできるようにする。 <u>友達と一緒に活動したり、伸び伸びとした表現ができている友達に注目することで、表現活動への抵抗感をなくしていく。</u> - 鍵盤ハーモニカの演奏では、<u>ドレミで歌う、空で指使いを確認する、歌いながら鍵盤上で指を動かす、など段階を踏みながら練習をしていくことで、技能面を高めていく。</u>
図工	- 作画や造形などの制作活動に意欲的に取り組む児童が多い反面、自分の思い通りに表現したり、自由に発想を広げたりすることに戸惑う児童が少なくない。 - はさみ、のり、クレヨン、色鉛筆、絵の具など、用途に応じた道具の扱いに、今後も慣れていく必要がある。	- 制作前に思いを聞き作品のイメージを膨らませてから表現できるようにする。また、柔軟な発想をしている児童の作品を称賛するなどして価値付けしていく。 - 鑑賞の場を設けて、互いの作品のよいところに気付いたり、自分の作品を工夫しようとしたりする意欲を育てていく。 <u>スムーズに表現活動に入れるように実演をして見せる。ICT機器を活用して手元の動きを視覚的に捉えられるようにする。生活科などの学習活動にも道具を取り入れ、扱う機会を増やしていく。</u>

体育	・運動に意欲的に取り組む児童が多い。 ・体力テストの結果より、反復横跳びのような動きに慣れていない児童が多いことが分かった。 ・運動経験の有無の個人差が大きいの、体の動かし方や使い方に慣れるようにし、様々な運動経験をさせたい。 ・遊び方を工夫する力を伸ばしたい。	・既知の運動に意欲的なので、様々な運動経験を積ませる。 ・準備運動やウォームアップで跳ぶ動きを多く取り入れ、遊びを通して動きの感覚をつかめるようにする。 ・ICT機器を活用して、体の動かし方の手本やポイントを確認して、イメージをもつことができるようにする。 ・ICT機器で運動の様子を撮影し、自分の体の動かし方を客観的に確認できるようにする。 ・運動の場の設定、児童がお互いに運動を見合う機会の設定を充実させる。
道徳	・ICTを活用して、挿絵や写真を拡大したり、動作化、役割演技などを取り入れたりすることで、登場人物の気持ちを考えることができるようになってきた。友達との関わり合いの機会を増やし、多面的・多角的な考え方に触れられるようにする。 ・自分の経験を振り返る際には、自分の考えたことを、文字に表すことができるようにしたい。	・自分の考えや振り返ったことをワークシートに文章で記入し、児童間で伝え合う活動を積極的に取り入れるようにする。 ・写真や動画で児童の身近なものを提示することで、教材とのつながりや自分の経験の振り返りをする手立てにする。また、書くことが苦手な児童には、絵で表すことや個別に聞き取って書き方を指導する。

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、 <u>具体的手だて</u> ）、改善プランの評価
国語	- 書く活動において、句読点やかぎの使い方や、段落分けなどの習熟の差が大きい。文章を書く際の基本として、意識をしなくても正しく使うことができるようにしたい。 - 物語を好んで読む児童が多いが、文字を読むことに抵抗感があり、図鑑等にしか手を出さない児童もいる。 - 漢字の学習意欲が高い児童が多く、終筆（とめ、はね、はらい）などの点画に気を付けて練習ができるが、学習に対して定着が追いついていない傾向がある。 - 全体的に語彙が少なく、初発の文章などの意味が捉えられていない傾向がある。	- 書く活動の際、繰り返し指導をする。また、意識する点（はじめ・中・終わりの段落分けや、かぎの使い方など）をその時々に応じてポイントを絞っためあてとして提示していくことで、段階的に定着を図っていく。 - 朝読書、読書旬間、図書などの時間を活用し、より一層本に親しむ機会を設けていく。図書館司書と連携をして、読み聞かせや本の紹介を行い、物語の本を手にする機会を増やす。 - 既習の漢字を使用する機会を意識的に設定したり、日常的に漢字に目を向けたりする指導をより一層取り入れ、漢字への興味・関心を高める。 <u>朝学習の時間にプリント等を活用して既習漢字に繰り返し触れることで、習熟を図る。</u> - 家庭学習チェック時にも正しく漢字を書けているか確認するとともに、家庭の協力も一層仰いでいく。 - 読み聞かせ等で、多くの語に触れる機会を増やす。また、単元学習と関連付けて、教科書の巻末「ことばのたからばこ」を活用し、使える言葉を増やしていく。
算数	- 全体的には、たし算やひき算の計算の技能が身に付いているが、個人差があり、10の合成分解でつまづいている児童もいる。繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算、かけ算九九を十分に習熟させたい。 - 文章題の場面を読み取って式に表す活動でつまづきが見られる。 - センチメートルやリットルなど、単位を用いた計算では、具体的なかさや長さがイメージできる量感を身に付けさせたい。 - 図形についての感覚を豊かにしながら、図形を構成する要素に着目して捉える力を養わせたい。 - 時計の午前、午後、正午の理解や、○時の○分後の時間を求める力を高めたい。	- 既習の内容を復習しながら、繰り返し練習することで、計算の技能を身に付けられるようにする。かけ算については、日常的に唱え、様々な人に聞いてもらうなど意欲的に取り組めるようにする。 - 文章問題では、<u>立式の根拠を考える</u>ことで、演算決定する力を伸ばす。 <u>ものさしや計量カップなど、具体物を用いて学習を進める。</u>算数の時間だけでなく、日常生活においても「長さ」「水のかさ」等を意識できるように、用語を用いて話す。 - 紙を折る、切る、等の、実際の操作を通して図形の特徴を実感できるようにする。 - 既習内容を、プリント等を用いて復習し、繰り返し練習をする。また、日常生活の中でも時間を意識できるよう、用語を用いていく。
生活	- 学校探検では、「1年生に学校のことを知ってもらおう」、「喜んでもらおう」と、分かりやすい説明やクイズの内容を工夫することで、年上の立場としての自覚が高まった。 「ぐんぐん そだて わたしの野さい」では、ミニトマトの成長の様子、「生きものなかよし大作せん」では、ありが巣を作り、子育てする様子を観察し、変化や成長に関心をもちながら育てる児童が多かった。 - 虫や野菜の観察を通して、生き物への親しみをもち、大切に世話を続けることができた。視点をもった観察をして、観察カードを書くことができるようになってきた。 - 町探検では、学校の周りにあるお店や施設に注目しながら地域を巡ることで新しい発見もあり、身近な地域に興味をもつことができた。	「1年生に楽しんでもらいたい。」「優しくしてあげたい。」という思いを実現できるよう、おもちゃ作りでは1年生でも分かる遊び方の工夫に取り組み、秋探しの単元では一緒に秋探しを行い、関わりをもてるように活動を工夫していく。 - 生き物との関わりを通して、自分のよさにも気付けるようフィードバックをする。観察する際には、<u>国語の観察文の書き方と関連付け、観察の視点、書き出しや文末表現の例を提示する。</u>さらに、児童同士で読み合い、付箋やカードなどを活用して気付いたことを残し、分かりやすい書き方をお互いに取り入れられるようにする。 <u>市立図書館などから教材に関する資料を集めておき、児童が気軽にすすんで調べることができるようにする。学習者用端末でも調べられるように、調べる語句やサイトなども提示できるようにしておく。</u> 2学期の町探検では、地域で生活したり働いたりしている人々と関わる機会を作り、仕事の内容や工夫について興味関心を深め、更に地域に親しみや愛着をもつことができるようにする。
音楽	- 範唱を聴いて、曲想を感じ取ることができる。 - 身体でリズムをとったり、表現したりしながら楽しく曲を聴いている。 - 意欲的に取り組もうとする児童が多いため、さらに楽譜を見て、正しい指使いやタンギングができるようにしたい。	- 伴奏をよく聴いて体で拍を感じ、心の中で歌うように指導する。 - いろいろな演奏形態の曲や楽器の音色を聴かせ、様子を思い浮かべたり、曲の気分を感じたりできるようにする。 - 楽曲の拍を感じ、手拍子するとともに、鍵盤を使って、指使いの確認やタンギングができるように、<u>技能面を高めていく。</u>
図工	- 活動に関心が高く、意欲的に取り組んでいる。 - 教科書の作品例や、見本、友達の作品の真似をして、発想が広がらない児童もいる。自分なりの発想で自由に表現する楽しさを味わうことができるようにしたい。	<u>児童の興味・関心を惹きつけてから活動のめあてを提示し、「形や色を見つけ、そこから考える」ことを意識できるようにする。</u> <u>活動の始まりにいろいろなアイデアを開き出し学級全体で共有をすることで、発想を広げることが難しい児童も活動に取り掛かりやすくする。また、のびのびと発想を広げている児童について机間指導の際に取り上げることで、他の児童にも刺激を与える。授業の終末には、鑑賞の場を設け、互いの作品の素敵などを伝え合う活動を行う。</u>

体育	・意欲的に運動に取り組み、楽しみながら授業を受けることができる児童が多い。 ・経験の違いによる運動技能に差があり、より一層技能面での個別指導を多く必要とする児童がいる。 ・友達の様子を観察して自分に合った運動の仕方を見つける児童も含め、楽しみながら自分に合った運動を行うことができている。 ・友達の良い動きを着目して真似ることで、よりよい動きにつなげることができるようになってきている。 ・勝敗にこだわりながらも、ゲーム・活動等を楽しもうとする態度が身に付いている児童が多い。 ・体力テストの結果より、ほとんどの種目で全国平均を下回る結果となった。筋持久力や柔軟性、俊敏性も高められる運動を取り入れていきたい。	・運動領域の特性に多く触れることにより、体を動かす心地よさを体験できるようにする。そのために、技能差に応じた多様な運動の場を設定する。 ・スモールステップで、運動の高まりを実感できる指導計画を作成し、成就感・達成感をより多く経験できるようにする。そのために、一つ一つのステップの目標の姿を意識させる指導を多く取り入れる。 ・児童のよりよい動きを学習場面に応じて取り上げ、共有化を図り運動の目標とする姿を意識させる学習展開を図る。 ・<u>学習者用端末を活用し、目標とするイメージを事前に意識できるようにする。</u> ・<u>学習者用端末や学習カードを活用し、スモールステップの学習過程や自らに応じた学習の姿を意識できるようにし、より具体的な体の動きを知らせる。</u> ・必要に応じて実技テストを行うと共に、学習者用端末や学習カードに記録や振り返りなどを残していくことで、実態を把握していく。
道徳	・ICTを活用して、挿絵や写真を拡大したり、動作化や役割演技などを取り入れたりすることで、登場人物の気持ちを考えることができるようになってきた。友達との関わり合いの機会を増やし、多面的・多角的な考え方に触れられるようにしたい。 ・自分の経験を振り返る際には、自分の考えを文章で表すことをできるようにしたい。	・<u>自分の考えや振り返ったことをワークシートに文章で記入し、児童間で伝え合う活動を積極的に取り入れるようにする。</u> ・<u>写真や動画で児童の身近なものを提示することで、教材とのつながりや自分の経験の振り返りをする手だてにする。また、書くことが苦手な児童には、絵で表すことや個別に聞き取って書き方を指導する。</u>

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて） 改善プランの評価
国語	・大半の児童が読書に親しむ傾向がある。図書室での読書活動や、読書週間などを活用している。一方、活字が苦手で読書活動に気持ちが向かない児童も一定数いる。 ・自分の意見や感想を文章にして分かりやすく書く姿勢に課題が見られる。思いはあっても、ノートやワークシートに書くことが苦手な児童がいる。 ・漢字の習熟が図れず、課題を抱えている児童がいる。 ・文章を書く時に句読点を適切に使用したり、文のまとまりを意識したりできない児童がいる。	・1年生の頃から続けている読書マラソンに対して、引き続き前向きに取り組む。また読書量を視覚化して、一人一人の児童が達成感をもてるようにする。学校司書との連携も継続して行う。 ・思いや意見を書きやすくするためにワークシートなどの工夫をする。また、個別指導を行い、それぞれにあった文章の書き方の方法を考える。 ・漢字ドリルでの取り組みが終わった後に、習熟を考慮しながら小テストを行う。範囲を事前に児童に周知した上で、自主学習の時間を設ける。個に応じた課題を出し、一人一人が達成感を味わえるように工夫する。また、書き方の指導では、<u>なぞり書きをしたり、書き方のポイントを分かりやすく示したりする。</u> ・文のまとまりを意識するためにワークシートなどに工夫を加え、文章のまとまりを意識する場を設ける。<u>文章は短くまとめることが、自分も読み手も読みやすいことを伝える。</u>
社会	・地図や資料等から情報を読み取る力に課題が見られる。 ・地図や資料等から読み取ったことや、授業で学習したことを、表現したり、別の場所で活用・応用したりする力を身に付ける必要がある。	・<u>方位の表し方や地図記号について、授業で定期的に扱い、定着を目指す。</u>また、副読本や地図帳を併用しながら、<u>複数の資料から情報を読み取る学習活動を取り入れていく。</u> ・<u>社会科の学習内容を総合的な学習の時間等に関連付け、学んだことを表現したり、活用・応用したりする活動を取り入れる。</u>学習した内容を白地図や新聞、スライド資料など、様々な手段でまとめることで、学んだことを表現する手段を増やしていく。
算数	・既習事項を生かして問題を解決する力を養う必要がある。 ・文章問題を解決する場合において、文章を的確に読み取れないため、何を求めるのか、どのように解決していけばよいのかを考え、説明できないことがある。	・単元ごとのレディネステストや東京ベーシック・ドリルの診断テスト等で習熟の実態を確認し、既習事項の理解度を把握する。 ・問題解決型の学習を繰り返す行うことで、<u>既習事項を活用した問題の解決の仕方を指導していく。</u> ・文章問題を解決する際には使用する数値や求めることを把握するためにキーワードに線を引いたり、図に表す方法を示したりすることで、<u>自力で解決できるよう手掛かりを示して指導をしていく。</u> ・<u>習熟別指導、補習教室を活用して個別の指導を行うことで、文章問題を読み取る力の定着を図る。</u>
理科	・実験や観察を楽しんで行う児童が多い。さらに、興味や関心を高めるために実体験を大切にしたい事象提示を行う必要がある。 ・動物や植物の体など、正しい用語を使って表すことが身に付いていない児童がいる。 ・理科の学習方法として課題に対する予想を立てたり、結果の見通しをもったりする場を設定する必要がある。	・児童の知的好奇心を高められるような体験的な活動をなるべく増やすことを意識する。また、小グループや個別での活動を増やして課題を追及できるようにする。 ・<u>授業のまとめでは、普段使っている言葉と、正しい理科の用語について比較し、繰り返すことにより身に付けていく。</u> ・<u>理科の学習の流れをしっかり身に付けるとともに、予想を立てる際には生活経験やこれまでの学習で得たことを生かすようにする。</u>
音楽	・階名の読み取り、リズム打ち、リコーダーの指使いの学習等に意欲的に取り組んでいる。ただ、タンギングが身に付いていない児童が各クラスに数人いる。 ・指使いが定まらず、正しい音が出なかったり異なった音色を出したりする児童がいる。 ・楽器の音色の特徴に関心を持ち、楽しむ態度が身に付いている。	・タンギングの練習を個別に行うなど、実技指導の充実を図る。個に対しての指導を工夫する。<u>達成度を確認するために、定期的にリコーダーのテストを行う。</u> ・指使いのやり方を習得するために、視覚教材などを活用し、児童が取り組みやすい環境を整える。 ・旋律の動きや拍の流れ、楽曲の特徴を体感できるようにする。また、鑑賞の活動を更に充実させて、表現に対する興味を広げていく。
図工	・どの単元でも、意欲的に取り組み、作品を通して自分を表現しようとしている。 ・制作、造形遊びともに、楽しみながら活動に取り組むことができている。 ・丁寧に最後まで取り組むことが難しい児童もいる。	・児童が興味・関心をもつことができるような教材提示や説明をする。また、<u>作業の時間配分を細かく区切って授業展開にメリハリをつける。</u> ・落ち着いた雰囲気の中で、安全に気を付け集中できるように配慮する。授業に集中できない児童には、個別に声掛けをし、具体的な目標を提示する。 ・作品を通して個々の児童のよさをお互いに共有し、自信をもって活動に取り組めるよう配慮する。

体育	・苦手な種目にも、めあてをもって取り組める児童が多い。 ・友達と協力して、用具の準備をしたり、励ましの声を掛け合ったりしながら学習に取り組めるようにしたい。 ・昨年度、鉄棒が十分にできなかったため、低学年までの技能が身に付いていない児童が多い。そのため、鉄棒に取り組む時間を増やしたい。 ・体力テストの結果より、50m走、立幅跳び、20mシャトルランが全国平均より低いので、陸上系を伸ばしていきたい。	・<u>ペアやグループで取り組める学習計画を立て、友達との関わりを増やせるようにしていく。</u> ・安全に配慮することや、友達に励ましの声を掛けたり、応援したりする態度を、毎回の授業の中で価値付けていく。 ・用具や場の工夫をしたり、学習カードを活用したりしながら、児童が自主的に動けるような場を設定していく。 ・<u>学習カードを活用し、自分のめあてに沿った振り返りを行ない、技能面の向上を目指す。</u>振り返り際には、よりよい動きをするためにはどうすればよいか、ポイントや友達や先生からのアドバイスを意識できるようにする。 ・体育の時間に柔軟体操やジョギング、鉄棒、縄跳び等の運動を始めた体づくりに取り入れる。
道徳	・教材の中で起きる出来事に対して、登場人物の行動や気持ちを自分事として捉え、生活に当てはめることが難しい。 ・様々な視点から物事を考え、多角的に捉えられようにする必要がある。 ・ねらいとする道徳的価値との関わりについて振り返ることができない児童がいる。 ・学んだ道徳的価値を、日々の生活に生かせるようにしたいが、経験と結びつかない児童がいる。	・<u>授業の導入で、価値項目に対しての児童の考えをもち、学習が進む中で友達の意見や教師の具体的な話から生活経験に当てはめていけるようにする。</u> ・道徳的価値について、複数の側面から捉えたり自分とは違う考えをもつ友達の意見を聞いたりすることで多様な意見に触れる機会をつくる。 ・日々の生活で、道徳的価値を意識している児童がいた場合には賞賛をし、周りによさを広げる。また、学習した道徳的価値を実践するような機会を意図的に設定して、個人や集団の良さを価値付ける。
外国語	・簡単な語句の聞き取りを通して、意味を理解したり、予想したりできるようにしたい。 ・歌やチャンツを通して、目標言語に親しめるようにする。 ・簡単な語句を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるようにしたい。 ・他の国の文化に興味をもち、日本と比べながら学習し、自国の良さを再発見できるようにしたい。	・<u>ゲームやアクティビティなどの活動を多く取り入れて、音声で十分に慣れ親しめるようにする。</u> ・具体物や画像などの視覚的にわかる資料を用いて、表現の意味を予想できるようにする。 ・外国の文化を知るとともに、日本語と英語の音声の違いや、語順の違いなどが分かるようにしていく。

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、 <u>具体的手だて</u> ）、改善プランの評価
国語	- 話し合い活動の際に、自分の考えを根拠をもって伝える力をつける。 - 文章の読み取りでは、叙述に即して自分の考えをもったり書いたりすることができるようにする。 - 新出漢字の書き取りの定着に個人差がある。正確な漢字の書き取りや、既習漢字を日常的に使う力を身に付けられるようにする。	- 話し合いの仕方や、相手の考えと自分の考えを比べる方法を示す。自分の考えを伝えるときには根拠をもって伝えられるように繰り返し指導する。<u>話し合いをもつ時間を定期的に取り入れる。</u> - 叙述を根拠に自分の考えをもてるよう、<u>中心や根拠となる文について、サイドラインを引いたり、ノートに書き出したりする。</u>学習者用端末の共有機能を活用し他の児童の考えに触れることで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 - 新出漢字について、<u>定期的に小テストを実施することで漢字の定着を図る。</u>また、授業等で文章を書くときに、学習した漢字をすすんで使うように繰り返し指導する。
社会	- 自分たちで学習課題を設定し、学習に意欲的に取り組むことができる。ただし、個人差がある。 - グラフや図などから内容を読み取ることや、その変化を探究する能力に差がある。	- 単元の導入において、児童が学習内容に興味をもてるように、<u>資料提示や発問を工夫する。</u> <u>児童が資料を読み取り、読み取ったことを確認する時間を十分に設定する。</u>学習者用端末を活用し、<u>それぞれの児童が資料から読み取ったことを効率的に共有し、より多くの情報を得られるようにする。</u>
算数	- 計算をする力、測定をする力の個人差が大きい。 - 自分の考えを図や言葉、式を活用して説明する学習を続けてきた。表現したり、伝えたりすることに苦手意識をもつ児童が多い。	- 各少人数教室や学年の課題を教員が共有し、その課題に合った教材を活用して、基礎的な学習の定着を図っていく。 <u>習熟度別の理解度に合わせて、学習課題の見通しをもって、問題に取り組めるように授業をすすめる。</u> <u>友達の考えや伝え方などの良さに触れながら、よりよい考え方、考えのまとめ方、伝え方の指導をしていく。</u> <u>自分の考えを表出する時間を十分に設定し、どのような考え方をしたのか全体で交流していく。</u>
理科	- 観察や実験に意欲的に取り組む児童が多い。 - 既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する力を付けていきたい。 - 実験結果を絵や図、文章を用いて記録する精度には個人差がある。 - 実験結果から、根拠のある考察をする力を付けていくことが課題である。	- 観察、実験の手順や注意事項、目的を確認し、基本的な技能を身に付けられるように指導する。 <u>身近な事象・現象を提示したり、共通の体験を児童がすることで、問題を見出したり、結果を示せたりできるようにする。</u> <u>デジタル教科書を用いて、全学年までの学習を想起したり、その単元に関連する身近な事象・現象を提示して、生活経験と関連付けて予想や仮説を考えられるように指導する。</u> <u>めあて、問題→予想→実験→結果→考察→結論という流れを意識できるようにさせ、型を示しながら、徐々に自分の言葉でまとめられるようにする。</u>また<u>ロイロノートなどを活用して、まとめ方を共有し、参考にできるようにする。</u>
音楽	- 意欲的に学習に取り組む児童が多く、音楽を楽しんでいる。表現することにも前向きで、発表等も楽しんで行うことができる。 - 歌唱の活動が好きで、曲想にあった表現をすることができる児童が多い。 - 美しい音色でリコーダーを演奏することができる児童が多く、前向きに取り組む姿が見られる。 - 鑑賞の活動に意欲的に取り組み、音色の違いに気付きながら楽しんで聴くことができる。 - 器楽合奏が好きで、色々な楽器への興味関心が高く、器楽演奏を得意とする児童が多い。苦手意識のある児童も、前向きに取り組んでいる。	- さらに意欲が高まるよう、テンポよく授業を進められるよう学習展開を工夫していく。発表する時間を十分確保し、さらに表現する楽しさを味わえるようにする。 - さらに表現の幅を広げられるよう、歌詞の内容を十分理解させ、表現に必要な技能を指導していく。 <u>引き続き、よい音への意識を高め、互いに聴き合う時間を多く設定し、さらに自信がもてるようにする。</u><u>難しい曲にも挑戦し、達成感を味わえるようにする。</u> - 鑑賞では、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりに気付けるよう、ワークシートや板書を工夫し、音楽のよさに児童が自ら気付けるような授業展開にする。 - 様々な楽器に触れる時間を十分に確保し、楽器の特徴をつかむとともに、友だちと音を合わせる楽しさを味わえるよう授業展開を工夫する。苦手意識のある児童が練習する時間を十分確保し、自信をもって演奏できるようにする。
図工	- 楽しく造形活動に取り組み、自分なりの表し方を工夫している。 - モダンテクニック等、新しく習ったことを意欲的に取り入れている。用具や材料の使い方を考えて試行錯誤しながら表現している。 - 納得いくまで粘り強く作品を完成させようとする児童が多いが、時間配分や手順を意識して、決められた中で仕上がるように工夫していきたい。	- 自ら考えて応用することで、自分の表現がさらに深められるような課題を設定し、いろいろなヒントで発想を促す。 <u>鋸や彫刻刀などを安全に使えるように指導する。</u> <u>完成作品の提示により作品の完成度の目標や、作業時間のペース配分を明確にする。</u>

体育	・運動に楽しく取り組んでいる児童が多い。危険な暑さにより、体育の授業を実施できなかったことから、十分な運動量を確保できない場面もあった。 ・ルールを守って集団行動をすることができる児童を増やしたい。 ・運動経験の差があり、技能面での指導が必要である。児童が技能を伸ばしていくために、知識力や思考力を育む必要がある。 ・体力テストの結果より、「走・跳の運動」が平均を下回っているため、技能面の向上が必要である。	・体を動かす心地よさを感じられるような指導計画を立てる。<u>準備運動は日陰で行ったり、適宜水分補給を入れたりするなど熱中症予防を徹底する。</u>体育館体育では適宜、冷房を活用する。 ・<u>毎回の授業で安全面についての指導を行うとともに、授業計画段階で安全面を確認し、事故の事前防止に努める。</u> ・動画を撮影して、自分の技能を客観的に振り返ったり、上手な児童の技能を参考にして、児童同士で教え合ったりすることで、<u>技能や課題に粘り強く取り組む態度の向上を図る。</u> ・<u>振り返りから次回の自分のめあてを考える型をつくる。</u> ・<u>準備運動などで定期的に走力および体力向上につながる動き(縄跳び含む)を取り入れる。</u>また、休み時間に外遊びを推奨し、体を動かす機会を作る。
道徳	・教材を通して児童がもつ問題意識を高め、自分事として捉えて自己の生き方についてより考えを深めていけるようにする。 ・教材を通して物事を多面的・多角的に考える力を付けられるようにする。 ・学んだ道徳的価値を、日々の生活に生かせるようにする。	・児童が道徳的価値についてより身近に感じられるように、<u>生活の中で経験したことを想起できるようにする。</u>また<u>事前アンケートを実施する</u>などの工夫をする。 ・様々な視点から物事を理解できるようにするために、<u>友達と対話する時間を確保したり、出た意見を整理して板書したりするなどの工夫をする。</u> ・<u>これまでの自分の経験を振り返る時間をしっかりと確保する。</u>そのうえで、<u>今後の生活に生かせることを考え、教材によって可能な場合は実践する機会を確保する。</u>道徳的価値を意識して生活している児童がいた際には価値づけ、周りに広げていく。
外国語活動	・具体物や写真などを用いて、聞こえた英語の意味を予想できるようにする。 ・音声で十分に親しんだ上で、簡単な語句や基本的な表現を用いてコミュニケーションをとれるようにする。 ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気づき、理解を深める。	・<u>外国語を安心して発することができるような雰囲気を作り、自分の考えや気持ちなどを表現できるようにする。</u> ・<u>自分の思いを伝えられるゲームやアクティビティを取り入れる。</u> ・毎時間既習表現を使う時間を設け、学習したことが継続的に使えるようにし、身近で簡単な事柄に関する事柄について質問したり答えたりできるようにする。 ・外国の文化に対する理解を深められるように、<u>外国の様子がわかる動画や資料を用いて紹介する。</u>

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、 <u>具体的手だて</u> ）、改善プランの評価
国語	- 登場人物の相互関係や心情などについて描写をもとに捉えられるようにしたい。 - 事実と感想、意見などとの関係を、叙述をもとに押さえ、文章全体の構成をとらえて要旨を把握することができるようにしたい。 - 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめられるようにしたい。 - 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣い注意して書けるようにしたい。 - 自分の考えをもち、さらに友達の考えを聞いて自分の考えを深め、自信をもって伝えられるようにしたい。	<u>意図的に行動の様子や表情を表す表現など言葉に着目したり、人物の関係を図に表して整理したりする。</u> - 順序を表す言葉や時系列を表す言葉に着目して読むことに加え、事実と意見を区別することや、資料を用いた論理展開を理解できるように指導し、文章全体の構成を捉えられるようにする。 <u>その都度、目的を明確にし、話す人が伝えたいことや要点を考えるなど意図を考えながら聞き合う場面を設け、習慣化していく。</u> - 学習した漢字を使用していない場合は、その都度声を掛け続け、日頃から使う習慣を身に付けていく。 - 個人で考える時間を十分に確保する。ペア→班→クラス全体というように、話し合う人数を徐々に増やすことで、自信をもって話し合いができるようにしていく。
社会	- 地球儀や地図帳を活用した学習に興味・関心をもって取り組む一方で、緯度経度などの活用、東西南北での表現ができるようにしたい。 - 地形図や雨温図の読み取りや資料を比較などし、社会的事象を正確に理解できるようにしたい。 - 様々な資料からの読み取りと携わっている人の思いを関連付けて考察ができるようにしたい。	<u>様々な単元の学習で意図的に地図帳や地球儀を活用し、それぞれの活用の仕方や用語の定着を図るとともに空間認識力の向上にも努めていく。</u> - 資料の内容や掲示の仕方を工夫する。また必要な情報を選択判断できるように、<u>常に資料からわかることを全体で共有し、考える場面を設けていく。</u> - 資料の読み取りを授業で繰り返し行う。資料の読み取り方を例示してから、同じような資料の読み取りに取り組み、全体交流を通して自分の考えをもてるようにする。また友達と交流して考えを深めてから、自分の考察や振り返りをノートに記入できるように指導していく。
算数	<u>全体的に熱心に学習に取り組む児童が多いが、基礎知識が低く、既習事項を生かして考えることが困難な児童もいる。</u> - 小数のかけ算、わり算は正答率が低かった。また<u>面積の公式などの既習事項を忘れてしまっている児童もいる。</u> - 既習事項を上手く活用したり、正しい用語を用いたりすることが困難なため、<u>自分の考えをうまく表現できない児童がいる。</u> - 友達と自分の考えを比べながら話を聞き、考えを深めることができる児童を育てたい。	- 児童が意欲的に取り組める授業づくりに努める。<u>単元最初に丁寧に既習事項を振り返り、関連を意識することにより、問題解決型の学習を行う。</u> - 基礎的基本的な知識、技能の復習を定期的に行い定着を図る。 - 児童が算数的な用語を使って説明するように指導する。<u>また単元、習熟度別クラスによっては話型を提示し、表現方法の定着化を図る。</u> - 上手に書けているノートを例示し、モデルを示す。
理科	- 学習したことを、確かな知識として定着させたい。 - 問題解決をするための思考力を身に付けさせたい。 <u>観察や実験に対する意欲に、児童によって個人差がある。</u>	<u>プレテストを通して学んだことを振り返る時間を確保する。</u>さらに、ロイロノート等の共有手段を活用して、プレゼンテーションやクイズを作成したり発表したりする活動を通して、知識の定着を図る。 <u>①問題②予想③実験・観察④結果・考察⑤まとめといった問題解決の過程を、自作のワークシートを通して明確にし、学習を展開していく。</u> <u>学習への意欲を高められるよう、実物や体験を通して学ぶ機会を計画的に授業に取り入れていく。また、学びへの意欲がさらに高まるよう、実際の気象情報や災害対策、身近に存在する不思議な事象などを題材にして、学習を展開するよう計画していく。</u>
音楽	- 意欲的に学習に取り組む児童が多く、音楽を楽しんでいる。苦手意識のある児童や、個別に支援が必要な児童もいる。 - 歌唱の活動が好きで、思い切り表現できる児童が多い。 - 美しい音色でリコーダーを演奏することができる児童が多く、前向きに取り組む姿が見られる。苦手意識のある児童もいる。 - 鑑賞の活動に意欲的に取り組み、音色の違いに気付きながら楽しんで聴くことができる。	- さらに意欲が高まるよう、テンポよく授業を進められるよう学習展開を工夫していく。苦手意識のある児童には、個別の課題を準備し、できることを増やしていく。 <u>さらに表現の幅を広げられるよう、歌詞の内容を十分理解させ、表現に必要な技能を指導していく。</u> - 引き続き、よい音への意識を高め、互いに聴き合う時間を多く設定し、さらに自信をもたせる。定期的にテストなどで運指等を確認し、苦手意識のある児童も自信をもって演奏できるようにする。 <u>鑑賞では、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりに気付けるよう、ワークシートや板書を工夫し、音楽のよさに児童が気付けるような授業展開になるようにする。</u>

	・器楽合奏が好きで、色々な楽器への興味関心が高い。	・様々な楽器に触れる時間を十分に確保し、楽器の特徴をつかむとともに、友達と音を合わせる楽しさを味わえるよう授業展開を工夫する。
図工	・意欲的に活動している。 ・前年度に学習した用具や技能を活かしながら制作している。 ・個々の作品を仕上げるために要する時間の違いに対応したい。 ・鑑賞では、友達の作品の良さに気付ける。	・毎時ごと実演で制作全体の見通しを示し、その時間ごとのポイントを理解できるようにする。 ・個別の声掛けで作業内容、スピードを確認する。作品を仕上げるために授業以外の時間を要する場合は、図工室を使用できるようにし、対応できるようにする。 ・彫刻刀や電動糸鋸等、危険な道具を使用するため、安全管理をしっかり行う。
家庭	・家族の生活を見つめたことで、家族の一員としてできることを実践する姿が見られたが、<u>学習したことを継続して生かしている児童は少ない。</u> ・基本的な手縫いの学習に意欲的に取り組む児童が多いが、<u>理解や基本的な技能の習得には差がある。</u> ・作成したいものに対する適切な縫い方を選択することについては、<u>個人差が大きい。</u> ・裁縫実習中の移動の仕方や縫い針の管理等、安全に配慮することの必要性を多くの児童が理解しているが、全員の定着までは到達していない。	・学習したことを振り返り、友達の体験等も参考にしながら家庭で役立つことをすすんで行うように指導していく。 ・ICT機器を活用して自分の課題に合わせた動画を視聴し、正しい操作を身に付けられるようにする。また、実用的な物の製作を通して、作る楽しさや生活に役立つことへの喜びを実感できるようにする。 ・調理実習を行う際は調理方法だけでなく衛生面や安全面に関する指導も、事前に欠かさず行うとともに、<u>実習中も適宜声を掛ける。</u> ・教員は、事前の食材の準備や道具の準備を、栄養士と確認しながら行い、安心して食べられる料理を作れるよう環境を整備する。
体育	・運動を楽しんでいると感じ、意欲的に取り組む児童が多い。 ・ルールを理解し、安全に運動しようとする児童が多い。 ・チームで作戦について話し合い、工夫することができる。 ・日常の遊びの中であまり触れていない動き（マット運動、柔軟性、投運動など）に関しては、技能差の個人差が大きい。 ・体力テストの結果より、<u>男子、女子共にシャトルランなどの走力項目が苦手な傾向にあることが分かった。</u>また、ソフトボール投げについては正しいフォームや投げ方をしている児童とそうでない児童の差が大きい。	・用具や場を工夫し、<u>自分の課題に合わせて運動に親しむことができるようにする。</u> ・学習カードやホワイトボードなどを活用して、自分や自分たちの課題を設定し、粘り強く課題解決に取り組めるようにする。 ・安全面への配慮の視点や、仲間への声掛けの仕方について教師が価値付けることで、児童が積極的に取り組めるようにする。 ・授業の導入では、持久力を高めるような運動を取り入れるなど、基礎的な体力向上を図っていく。 ・授業の導入や主運動につながる運動を取り入れ、基礎的な体力向上や基礎技能の定着を図る。 ・ボールを投げる運動を行う際には、<u>ボールを遠くに投げるためのボールの握り方や体の使い方を丁寧に指導する。</u>
道徳	・課題に対して、<u>自分の考えをもつことのできる児童が多い。</u> ・授業中の発言は積極的な児童と、<u>そうでない児童の差が大きい。</u> ・道徳的価値についてはおおむね理解できている児童が多い。 ・<u>学習を通して学んだことを日々の生活の中で生かそうとする実践意欲が低い傾向にある。</u>	・<u>自分の考えと友達の考えを認め合えるような学習環境の構築を目指して、ペアでの意見交流の場を積極的に設ける。</u> ・授業中の板書は、児童の様々な意見を分類し、共通点や相違点を整理しながら児童の思考が深まるように工夫していく。 ・児童が学習を自分事として捉えることができるように、授業では事前調査アンケートなどを取り入れ、自分の生活とより結びつくように工夫する。 ・<u>授業の振り返りでは、その時間に学んだ道徳的価値をどのように生活の中で生かすのか具体的に考えられるようにする。</u>
外国語	・<u>簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを表現できる力を育てる。</u> ・積極的に発声できる児童が多いため、身近な事柄について、伝えようとする内容を整理して表現できるように声掛けをする。 ・<u>日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えることができるようにしたい。</u> ・ALTと一緒にゲームや歌、チャンツを行い、楽しみながら英語を話したり、聞いたりする。 ・外国語や外国の文化に親しむ経験を積めるようにしたい。	・外国語に慣れていくために、歌やゲームなどを多く取り入れる。また、ALTや友達と外国語を使ったコミュニケーションをとれる場をたくさん設ける。 ・ALTや、視聴覚教材などを活用し、言語の違い、日本と外国の文化（行事・生活・習慣など）との違いに気付けるようにする。 ・<u>既習表現を何度も使うスパイラル学習を行い、基本的な表現の定着を目指す。</u> ・「書く」活動では、語と語の区切りに注意することや、例の中から言葉を選んで書く活動を取り入れ、基本的な表現を用いて書けるようにする。

	課題（伸ばしたい力、身に付けさせたい力）	改善プラン（課題改善のプラン、具体的手だて）、改善プランの評価
国語	・ 友達の考えをよく聞いて、自分の考えを付けたしたり、質問したりできる児童が多い。自分の考えをまとめて、伝える力を伸ばしたい。 ・ 物語文や説明文に対して、ほとんどの児童が自分の考えをもつことができる。考えを文章だけでなく、様々な表現方法でまとめる力を伸ばしたい。 ・ 作文の書き方については、昨年度に大きく向上したため、読み手を意識した文章を書ける力を伸ばしたい。 ・ 前の学年までに配当されている漢字を文や文章の中で大半の児童が使用している。	・ <u>自分の意見をもつための時間を確保する。その後ペアやグループでの交流を設定し、自分の意見に自信をもてるようにする。また、共有の中でも発表の準備を行い、発表の仕方についても話し合いができるように声掛けをする。</u> ・ <u>自分の考えの根拠が明確になるように意識的に教材文に立ち返るようにする。読み取った登場人物の気持や筆者の伝えたいことをベン図や人物相関図などの図を用いてまとめるような指導をすすめる。</u> ・ <u>卒業文集作成に向けて、作文用紙を用いて、卒業文集のベースを作り、そこからよりよい文章にしていく。推敲の学習を行う。また、今までに学習した表現の工夫を振り返る。</u> ・ <u>習った漢字は日頃から使う習慣を身に付けられるようにする。ノートやワークシートで習った漢字を使えていない時は声掛けを継続的に行う。</u>
社会	・ 社会科の学習に対して興味をもって取り組める児童が多い。 ・ 調べたいテーマごとにグループを作成して、意欲的に資料から情報を読み取ることができた。 ・ 資料から読み取ったことを表現する力には個人差が見られる。 ・ 調べて分かったことを整理したり、学んだことから自分が考えたことを文章にしたりして自分の力で学習のまとめをすることについて苦手と感じている児童がいる。 ・ 歴史学習を進めていく上で、児童の定着度に差ができています。	・ 写真や動画などの資料を使う際は、読み取る際の観点・視点を絞って資料を読み取らせるようにする。 ・ 友達と交流する活動を取り入れ、表現の仕方を増やすことができるようにする。 ・ 単元の最初に学習問題や学習計画を立て、何をどのように学んでいくのか、学習のイメージをもてるようにする。単元のまとめでは、学習問題に戻り、単元を振り返りまとめる活動を行う。ロイロノート等を活用しながら、様々な考え方、表現の仕方に触れるとともに、まとめ方を習得できるようにする。 ・ <u>授業の最初にクイズ形式で問題を出題して、知識の定着を図っていく。また、年表や動画といった視覚教材を多く活用していくようにする。</u>
算数	・ 知的好奇心が高く、難しい問題に積極的に取り組もうとする児童が多い。さらに主体的に学ぼうとする意欲を引き出したい。 ・ 自分の考えを伝えることに喜びを感じる児童が多いが、苦手な児童もいる。 ・ 学力の差が大きく、基本的な整数の四則計算が身に付いていないために小数や分数の計算でつまづいている児童が少なくない。 ・ 問題の解き方を説明したり、他の解き方を考えたりすることに対して意欲的に取り組む力を伸ばしたい。	・ 学習を繰り返す中で、<u>問題を解決できた喜びを感じたり、自分に自信をもてるような言葉掛けをしたりして、学習に前向きに取り組むよさを感じられる指導をする。</u> ・ <u>児童同士での共有の場を多く設け、お互いの良さを認め合いながら、よりよく伝え合えるように声掛けをしていく。</u> ・ 習熟度別のクラスに応じて、<u>既習事項の振り返りや補充課題を取り入れながら授業を進める。</u> ・ <u>問題解決型の学習を繰り返す行うことで、学習の進め方が定着するとともに、既習を活用した問題の解決の仕方を指導していく。</u>
理科	・ 学習したことを、確かな知識として定着させたい。 ・ 予想をもち、目的意識をもって実験をすることを身に付けられるようにしたい。 ・ 観察や実験に意欲的に取り組む児童が多い。	・ <u>プレテストを通して学んだことを振り返る時間を確保する。また、ロイロノート等の共有手段を活用して、プレゼンテーションやクイズを作成したり発表したりする活動を通して、知識の定着を図る。</u> ・ 問題に対し、自分なりの予想をもつことで、実験をする目的が明確になると考える。そこで、①児童間で個々に予想したことを話し合う、②考えの違いや似ている点を共有する、③それを確かめるために実験を行うといった過程で、学習を展開していく。 ・ 引き続き、学習への意欲を高められるよう、<u>実物や体験を通して学ぶ機会を計画的に授業に取り入れていく。</u>また、学びへの意欲がさらに高まるよう、<u>実生活や社会の中で活用されている科学技術や環境問題など、身近な話題を題材にして学習を展開するよう計画していく。</u>
音楽	・ 意欲的に学習に取り組む児童が多く、苦手意識のある児童も、できることは挑戦しようという意識があり、前向きに活動している。 ・ 歌唱の活動が好きで、のびのびとよい表情で歌う児童が多い。	・ さらに意欲が高まるよう、難しい曲にも取り組むなど、学習内容を工夫していく。<u>基本が身に付いていない児童には、個別に指導したり、家庭で練習するよう声掛けしたりし、基本の定着を図れるようにする。</u> ・ 歌唱では、歌詞の内容を理解するとともに、思いや意図を表現するために必要な技能を身に付けられるよ

	・美しい音色でリコーダーを演奏できる児童が多く、粘り強く練習する姿も多く見られる。さらに個々の運指の技能や表現力を高めたい。 ・鑑賞の活動に意欲的に取り組み、曲想の変化等に興味をもって聴くことができる。 ・器楽合奏に意欲的に取り組む児童が多く、友達と協力してよりよい演奏を目指そうと努力することができる。	・う学習展開を工夫していく。 ・教材や言葉掛けを工夫して、鑑賞で学んだことを自分たちの表現に生かしていけるようにする。また表現の違いによる面白さに気付けるようにしていく。 ・<u>演奏を工夫する時間や聴きあう時間を十分確保し、自分や友達の表現のよさを認め合いながら、さらにより演奏を目指す姿勢を育てていく。</u>
図工	・話を聞く姿勢が良い。意欲的に取り組む児童が多い。 ・これまでの経験生かしながら、材料・用具の使い方を工夫して活動している。 ・自分の表現の意図に合わせて、これまで経験した用具を活用し、安全に留意して活動できるように指導する。 ・友達の作品の良いところを見つけ、自分の作品の良さにも気付ける。	・<u>作業工程をしっかりと理解させるため、見本作品や実演で興味を引き出すように工夫する。</u> ・工程を区切り、都度確認を怠らない。 ・電動糸鋸や彫刻刀などの刃物の扱い、安全面に配慮する。
家庭	・実習では、計画を立てるところから実習、振り返りまで、主体的に取り組む児童の姿が多く見られた。 ・自分自身の生活時間を見直し、家庭の手伝いを行う必要性を学習したが、課題意識の低い児童や実践することが難しい児童がいる。 ・裁縫やミシンを使った製作では、児童によって技能の差が大きい。 ・家庭で調理する機会が多い児童とそうでない児童の差が大きい。 ・洗濯表示や調理方法など、基本的な知識の定着に課題がある。	・持続可能な社会を生きるために、自分でできることを考え、実践していけるようにする。 ・<u>家庭の手伝いをすすんで行うために、はじめは、計画を立てて実践していくようにする。</u> ・生活の中で実践することを通して、実感を伴った理解を深められるようにする。 ・<u>裁縫やミシンの学習では、お手本動画を児童のタブレット端末に送り、いつでも見られるようにする。</u> ・家庭で取り組む課題を実施する。
体育	・運動に楽しく取り組んでいる児童が多い。 ・ルールを守って運動できる児童が多数いる。 ・チームで作戦について話し合い、工夫することができる。 ・非日常的な動き（マット運動、柔軟性、投運動など）に関しては、技能の個人差が大きい。技能の習得にのみ注視せず、課題解決能力を身に付けられるようにしたい。 ・体力テストの結果から、全身持久力や柔軟性の向上に努めたい。また、男子は投げる動きの定着を図り巧緻性を高めたい。女子は俊敏性や筋力を高められるような運動を行っていきたい。	・用具や場を工夫し、スモールステップで運動に親しむことができるようにする。 ・学習カードやホワイトボードなどを活用して、自分や自分たちの課題を設定し、粘り強く課題解決に取り組めるようにする。 ・安全面への配慮の視点や、仲間への声掛けの仕方について具体例を用いたり掲示物にして示したりすることで、児童が積極的に取り組めるようにする。 ・教師の意図的な言葉掛けにより、児童の思考を促す。 ・授業の導入や主運動につながる運動として、持久力や柔軟性などを高めるための運動を取り入れ、継続的に取り組む。また、ボールを投げる運動を行う際には、体の使い方の指導を丁寧に行うとともに、休み時間等でもボールを使った遊びに親しむように促す。
道徳	・自他の考えの違いを受け止められる児童が多い。 ・発言することが難しい児童がいるため、意思表示等で自分の考えを表現できるように指導したい。 ・自分の生活経験や既習事項をもとに考えているが、学級や社会との関わりについて言及したり、将来の自分の姿に考えを巡らせたりするように指導したい。	・自分の考えをもち、自分と友達の考えとの違いを比較できるようになるために、引き続き発表の方法を工夫するとともに、発表の時間を確保する。板書では、児童の考えを分類したり、関連付けたりして、考えの「見える化」を図り、考えを深められるように指導する。 ・板書された友達の考えを見て、共感する場合に挙手をする等、意思表示の場面を設定し、自分の考えを表現できるようにする。 ・<u>事前に児童に取ったアンケートの結果を紹介したり、題材に合った身近な出来事を話したりして、意欲や関心が高まるように工夫して指導する。</u>
外国語	・多くの児童がゲームや歌、チャンツを楽しみながら取り組むことができている。目的、場面、状況に合わせてコミュニケーションをとる力を育てたい。 ・簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを表現できる力を育てる。 ・「書く」ことに慣れてきているが、4本線への書き方がまだ定着していない。基本的な表現を書き写す時間を設けて定着を図る。	・<u>既習表現を繰り返し使えるように、スパイラル学習を行い表現の幅を広げていく。また、ALTや友達と外国語を使ったコミュニケーションをとる場を多く設定し、表現の定着を図るようにする。</u> ・ねらいに応じたアクティビティー（ゲーム）を選択し、英語を繰り返し発話したり、聞いたりして表現に親しむ。 ・ALTや、視聴覚教材などを活用し、言語の違い、日本と外国の文化（行事・生活・習慣など）との違いに気付けるようにする。 ・「書く」活動では、<u>語と語の区切りに注意することや、簡単な語句や基本的な表現を用いた例の中から言葉を選んで書く活動を取り入れる。</u>